



子どもたちを万博に連れて行かないでください

カジノはいらん！住吉の会
代表 貝田達男

平和、民主、革新の日本をめざす住吉の会
代表 古旗孝

日頃の教育活動に敬意を表します。さて、いよいよ万博の開催まで1年足らずになりました。しかし、問題点の多い大阪万博は、一向に盛り上がりを見せません。そんな中、大阪府・市は、子どもたちを無料で招待すると言い出しました。

私たちは、以下の点からこのことを見過ごすことができません。子どもを守る立場から、子どもたちを危険にさらすことのないよう各位の適切な判断をお願いします。

万博は日が経てばたつほど、実現が怪しくなってきました。開催地の夢洲では、3月にメタンガスによる爆発がありました。そんなところに子どもたちを連れて行っていいのでしょうか。

夢洲は、ご存知のとおり、産業廃棄物や浚渫土砂で埋め立てられた人工島です。有毒なものが埋まっています。観光バスの駐車場の地下には、PCBが詰まった袋が1万袋（1袋3㎡）埋まっています。そして驚いたことに、夢洲は廃棄処分場を終了することができていません。万博会場となる夢洲1区は、保有水のPH値が廃止基準を超えており、処分地内からのガス発生が続いています。そして、廃止基準（2年以上PH基準値5.0～9.0以下、ガスの発生がほとんどみられないなど）を満たしていません。盛り土をしてコンクリートで表面を覆っても、法的にはまだ廃棄物処分場のままで、本来、人が入ってはいけない場所なのです。

何より気がかりなのは、子どもたちへの健康被害です。万博期間中、隣接する区画ではカジノのための工事が継続されます。埃が舞い、その中には有害物質が混じっていることが考えられます。雨が降ると水はけが悪く池のようになってしまいます。3月に起こったメタンガス爆発も1回で済むとは限りません。

メタンガス発生の対策として、79本の筒を立てて空中に放出していました。しかし、万博会場整備のため埋めて、他の場所から排出するようにしました。そのため、地下に溜まって爆発したのが3月の事故です。起こるべくして起きた事故だといえます。

万博会場が夢洲になった時点で、私たちはまず、「無茶やな」と思いました。水道もない、

電気もない、道路もない、ないない尽くしの人工島です。1日の来場者を16万人と想定していますが、トイレの下水処理能力は8万人と言われています。

万博の花、参加国が自前で建てるパビリオンは、60から40前後に激減。ショボい万博になることは間違いありません。会場への交通手段も大渋滞が予想され、パビリオンの見学も万博協会が指定、いつもは先生方が入念に準備される下見もできません。これでは引率責任も果たせない事が予想されます。1本の橋とトンネルしかない夢洲に行って、渋滞する車の中で熱中症になる子どもが出るのではと危惧されます。その場合、救急車がすぐ来ることができるでしょうか？

さらに、一番懸念されるのは、防災基本計画について、十分な議論がされず、策定に至っていないことです。南海トラフ地震や直下型地震、津波が開催時に発災する可能性は否定できません。また、台風シーズンであることや、昨今の気象変動に伴う線状降水帯などの風水害も想定できます。避難計画が明らかにされないことも懸念材料です。夢洲は台風や地震に極めて弱い場所です。夢洲に避難できる場所はありません。そうした立地条件であるにもかかわらず未だに防災基本計画が明らかにされていない場所に未来ある子どもたちを行かせないでください。

万博で整備されたインフラはカジノに使われます。カジノのための万博でもあります。アメリカ館のスポンサーは、カジノ業者のMGMリゾート・インターナショナルです。

学校教育活動を支えるのは、健康な生活です。子どもたちがすくすく育つ環境です。教育環境を破壊するカジノの為に、万博の成功のために、子どもたちを利用するというのは逆行した考えであり、教育者が加担すべきことではないと考えます。参加人数を無理やり増やし、参加者が少なくなって「失敗との非難」を浴びるのを避けるための方策でしかありません。

どうか学校から子どもを万博に連れて行かないでください。どうしても学校行事とするなら、参加不参加は自由ということにしてください。

以上、ご考察のほどお願いいたします。